

《令和五年度 暗唱③》

でんでんむしのかなしみ

にいみなんきち
新美南吉

いっぴきの でんでんむしが ありました。
あるひ そのでんでんむしは
たいへんなことに きがつきました。

「わたしは いままで うっかりしていたけれど、
わたしの せなかの からのなかには
かなしみが いっぱい つまっているではないか」

このかなしみは どうしたら よいでしょう。
でんでんむしは おともだちの でんでんむしの
ところに やって いきました。

「わたしは もう いきて いられません」
と その でんでんむしは おともだちに
いいました。



でんでんむしの
かなしみ